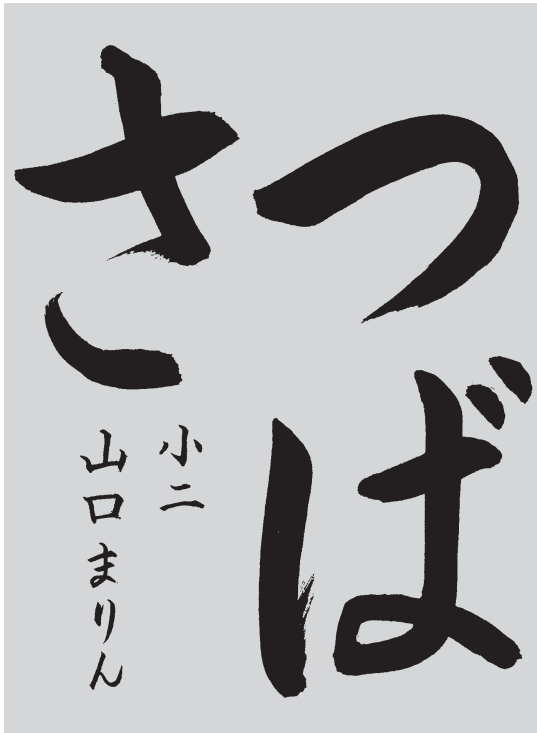


〔12月5日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。  
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本

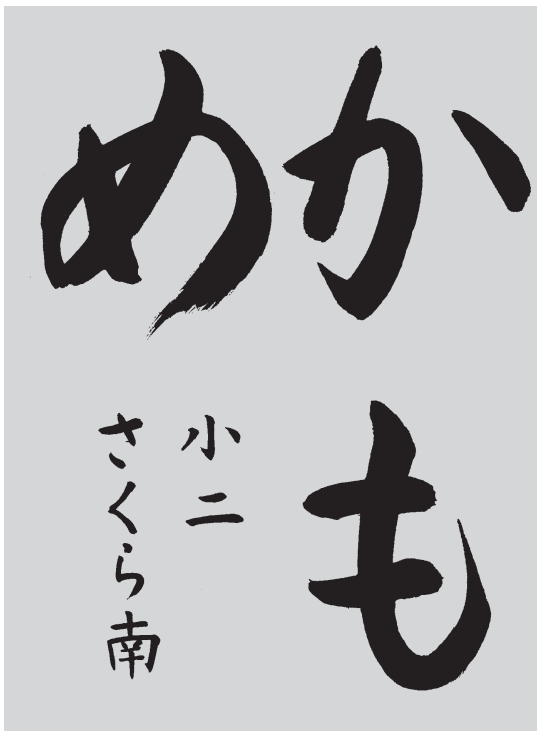


小川弘舟先生

幼・小学1年参考手本



工藤永翠先生



広瀬舟雲先生



千葉蒼玄先生

〔12月5日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小学4年参考手本



川島舟錦先生

小学3年参考手本



坂本素雪先生



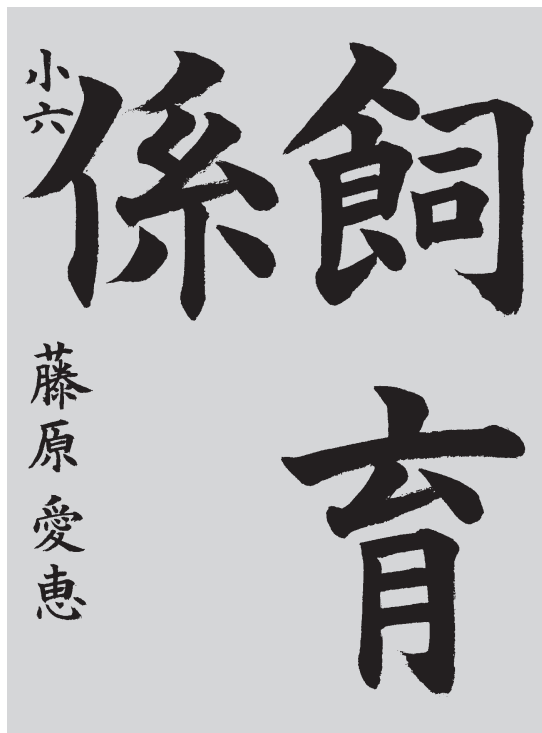
半田藤扇先生



大野祥雲先生

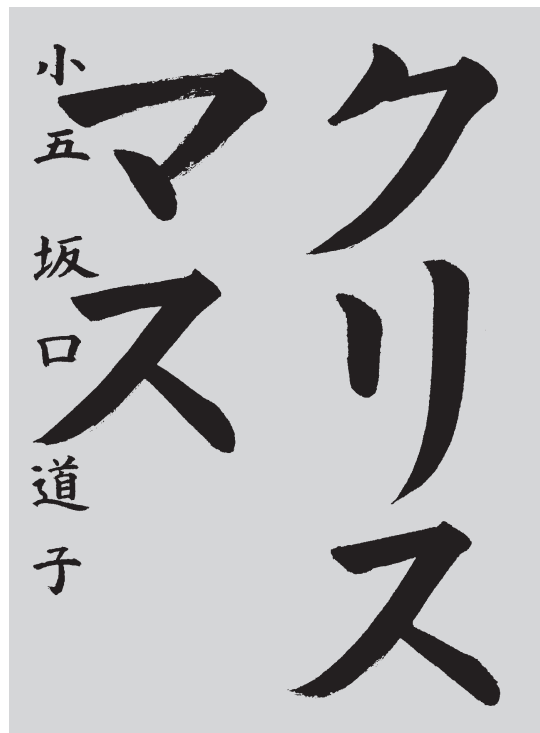
〔12月5日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小学6年参考手本

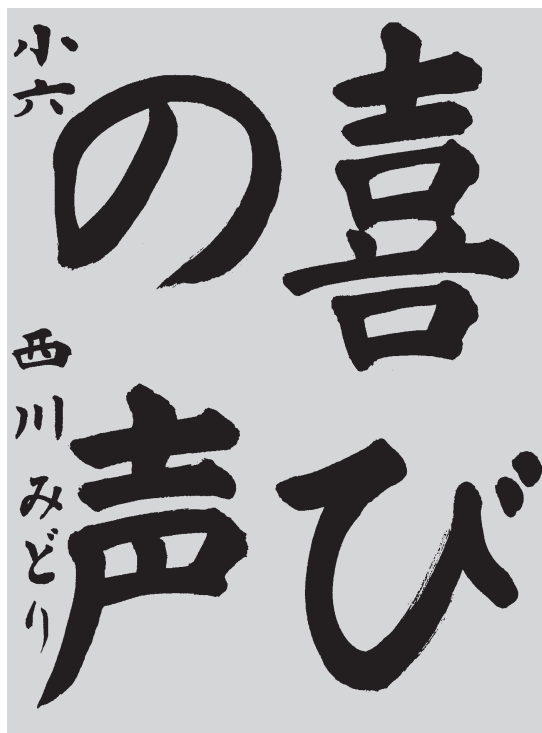


名越蒼竹先生

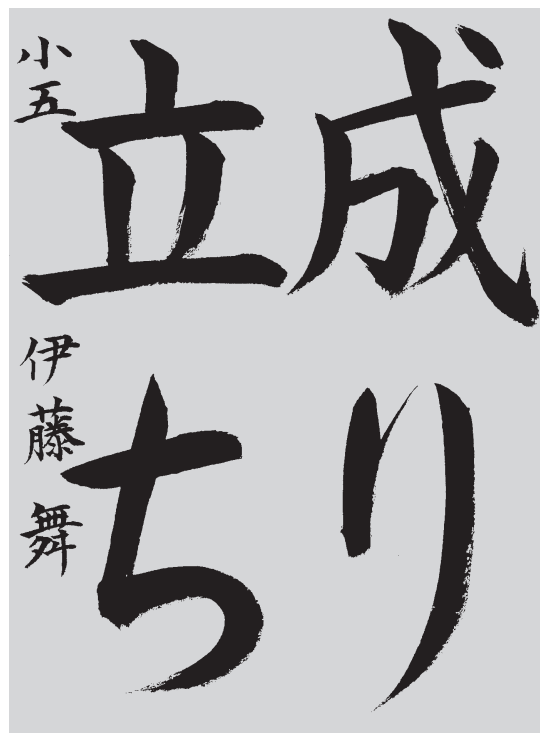
小学5年参考手本



小竹石雲先生



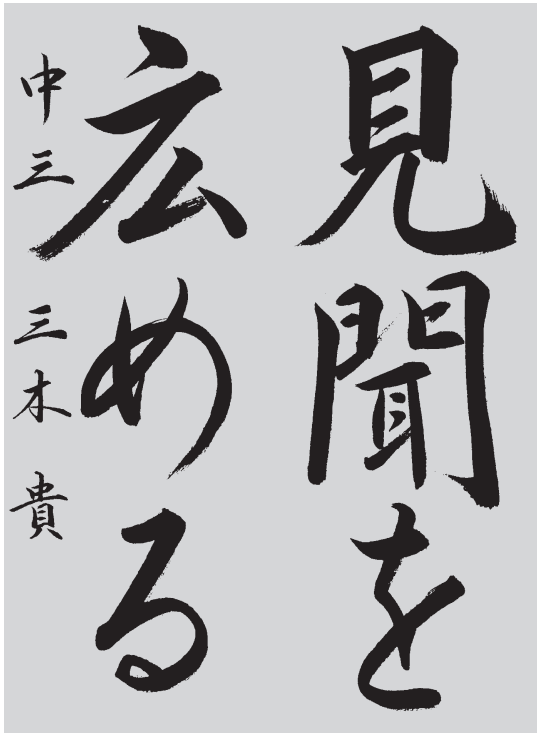
辻元大雲先生



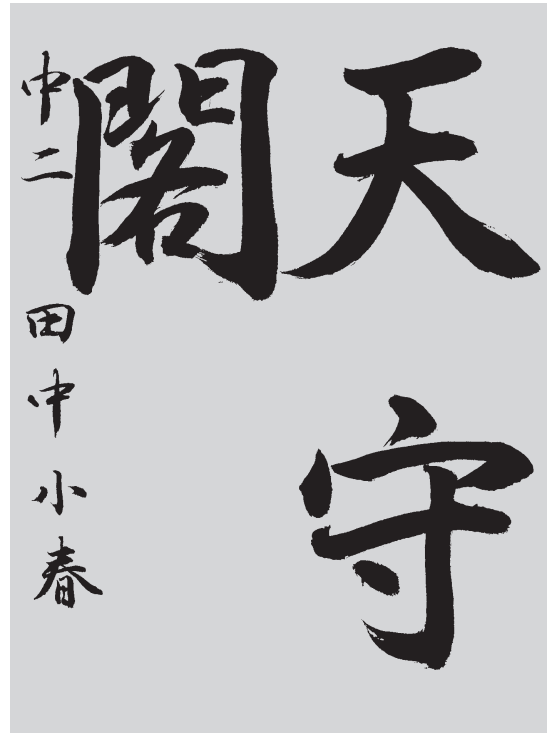
小伏小扇先生

〔12月5日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

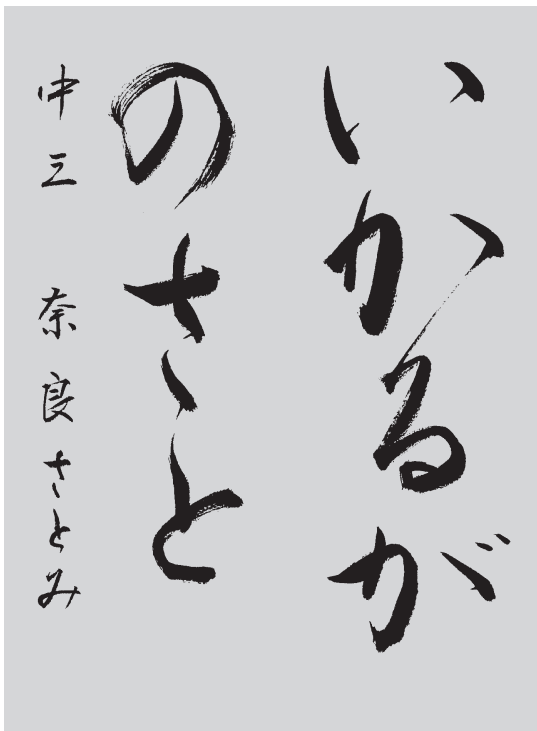
中学全学年参考手本（中学生は、楷書又は行書どの課題を書いてもかまいません。）



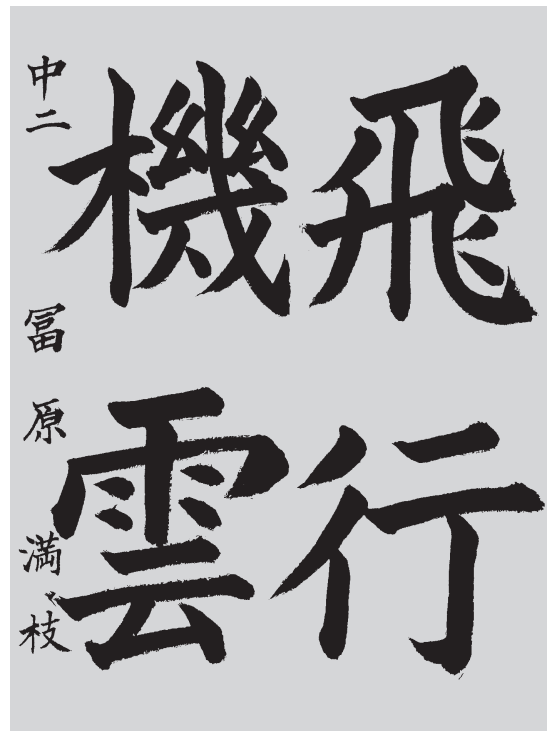
種 谷 萬 城 先 生



恒 次 鶴 城 先 生



飯 高 和 子 先 生



小 林 琴 水 先 生

# [12月5日締切課題]

幼・小学 1 年

## 硬筆参考手本

解説 辻元大雲先生

〔12月5日締切課題〕 用紙は本院指定のものか、もしくは指定の用紙をコピーして使用してください。  
 ※12月5日締切用の「段級が印字されたバーコード出品券」は、1月号の本と同送されますので、その券を貼って出品してください。(毛筆も同じ)

◎各学年に「学習のめあて」をつけました。

「なにをれんしゅうするか」をはっきりして一生けんめい書きましょう。

◎書写用具は、えんぴつ(HB又はBが望ましい)、フェルトペン、ボールペン、その他学年に応じたものを使用して下さい。

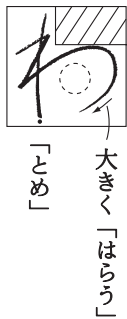
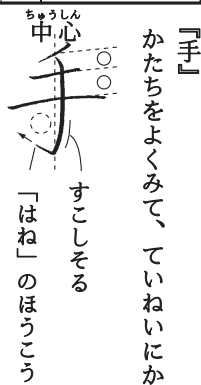
◎学年は漢数字(一、二、三……)、級は算用数字(10、9、8……)、段は漢数字(一、二、三、四)と記入。

支 部 名					
	わ	を	つ	く	ろ
だん・きゅう					
がくねん					
	一				
なまえ					
	な	べ	し	ま	も
	え				

手をつないで

- ◎作品に、学年と自分の「氏」「名」を本人が書く。
- ◎幼・小一の方は学年を書かなくてもよい。
- ◎支部・支局名は、本人が書けない場合は、ゴム印でもよい。

◎出品券は清書の右下にはってください。毛筆、硬筆の貼り間違いにご注意ください。



もとにかえすようにせまへ

〔12月5日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小学3年

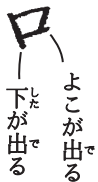
小学2年

支 部 名				
		書		
		いた	漢	
段・級		本	字	
		を	の	
学 年		読	な	
	三	ん	り	
名 前		だ	立	
	川	。	ち	
	原		を	
	海			

支 部 名				
		池		
		まで	森	
段・級		で	の	
		走	小	
学 年		り	道	
	二	ま	を	
名 前		し	通	
	秋	た	っ	
	山	。	て	
	心			
	音			



まがり



よこが出る  
下が出る



少しそる(中心にもどる)  
長く

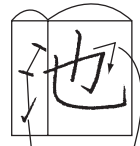


右はらいのせし方

『漢字の成り立ち』  
「漢」の字形をよく分間をととのえて  
書きましょう。



へつじゅん  
十土キキ走



シ(さんずい)のかたち

おれてはねる



いったんとめてはらう  
え(しんにょう)の  
かたちをちゅうい

じょうずに  
のせる

『森』  
「通」の字形を正しくかきましよう。

〔12月5日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小学5年

小学4年

支部名			
段・級			
学年	五		
名前	永野桜子		
	を	年	
	開	末	茶
	い	大	の
	て	売	間
	い	り	で
	ま	出	デ
	す	し	パ
	。	の	ー
		広	ト
		告	の

支部名			
段・級			
学年	四		
名前	池真由		
	物	葉	
	に	に	作
	注	気	品
	目	を	の
	し	つ	中
	て	け	の
	読	、	大
	む	登	事
	。	場	な
		人	言

中心  
  
 はねる角度に注意  
 払い  
 とめ  
 （筆順）  
 戸門門開開

中心  
  
 曲がり  
 とめ  
 上部を小さく  
 下部を大きく

中心  
  
 「茶」の左右をつりあいよく書きましょう。  
 左右のはらいの角度と長さに気をつけて、つりあいよく

土（つちへん）を小さく  
 ななめ分間の方向をそろえて

ハ（はっがしら）の（筆順）  
 フマフハハ

中心  
  
 「登場人物」  
 中心線や「へんやつくり」「かんむりとあし」に気をつけて形を整えましょう。  
 横画の長さと同間に注意  
 長く

〔12月5日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

中 学 生 (楷書又は行書)

小 学 6 年

支 部 名	ろな人や文化に触れています。 て世界を回り、外国のいろい 今や彼は一流の音楽家とし
段・級	
学 年	
名 前	
中一 中尾留加	

支 部 名	れのようになり、暗くなっ 包まれ、あたりは夕暮 朝の海は深いきりに
段・級	
学 年	
名 前	
六 橋田健太郎	

外国 音楽家

〈簡単な行書〉

全体につづけて書く(行意を)

彼は一流の音楽家

『音楽家』  
漢字は大きく、かなは少し小さく書いてみよう。

七つの横分間に気をつけよう

暮

接し方に注意(十画目の右はらいは八画目の横画の上に出る)

おれ

包

まがり  
〈筆順〉  
ノ ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ

接し方に注意

海

はねる

〈筆順〉  
シ ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ

『朝の海』  
漢字の分間や「へんとつくり」の大小に気をつけて字形を整えましょう。



筆順を学ぼう ㊦

〔12月5日締切課題〕

中学生(行書)

6年		4年	
係	飼	間	仲
かかケイ かか・ かりる	かシ か・ う	まあケン いだン だ	なか チ ユウ
イ 仁 係	ハ 今 食 飼 飼	一 尸 尸 門 門 間	ノ イ 仁 仲
中学		6年	
機	飛	閣	喜
はキ た	ととヒ と・ ぶ す	カ ク	よキ ろこ・ ぶ 士
木 機 機 機 機	フ 飛 飛 飛	一 尸 尸 門 門 閣	吉 吉 喜

支 部 名	今や彼は一流の音楽家として 世界を回り、外国のいろいろな 人や文化に触れています。
段・級	
学 年	
名 前	
	石井玲良

中学生の硬筆、三回目の  
行書手本です。  
三ヶ月に一回試験的に掲  
載していますが、いなか  
ですか。中学生は、楷書・  
行書の両方を書いてみま  
しょう。

行書を学ぼう

(208)

(中学生の課題より、辻元大雲先生書)

故

故

雲

雲

飛

飛

郷

郷

海

海

行

行

機

機

行書と教科書体楷書の「ちがいを見つけましょう」

ひらがなの字源

(208)

と	さ	の	が	る	か	い	
止	左	乃	加	留	加	以	源字
と	と	乃	か	る	か	い	字形
と	と	の	か	る	か	い	

書写教育  
全国大学書写書道教育学会編より転載

※源字については、異字体から変遷したものに\*印を付して( )にその字体を記した。  
※字形は古筆から抽出した。上段には源字に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

# 漢字に親しもう

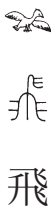
⑤7

12月号中学生の毛筆課題「飛行機雲」から「飛」にスポットを当てて、成り立ちから使い方「飛ぶ」と「跳ぶ」の使い分けまで学んでみよう。

## 飛

おん ヒ  
くんとぶとばす  
部首 飛(とぶ)  
画数 9

はねる  
ひいてひいひいひいひい



鳥がはねを左右にひらいて、とんでいるすがたをあらわした字。

「とぶ・とばす」「はねあがる」「とびあがる」「とぶように」は「はい」などのいみに使われる。

### いみ・じゆく

- ①空中をかけまわる。—飛行・飛来
  - ②とびあがる。—飛揚・飛躍・雄飛
  - ③とぶように速い。—飛報・飛脚
- つかいかた
- 飛行機でハワイまで行く。
  - 空を飛びまわるつばめ。
  - 話が飛躍しすぎてよくわからない。
  - この町は十年で飛躍的に発展した。



- 根も葉もないうわさが飛ぶ。
- ページを飛ばしながらざっと読む。

### 「飛ぶ」と「跳ぶ」

【飛ぶ】はねやつばさなどで空中を動く。「とぶ」「とばす」に広く使われる。

- 飛行機が空高く飛ぶ。
  - つばめが空をすいすい飛ぶ。
  - グラウンドに声援が飛ぶ。
  - 変なうわさが飛ぶ。
  - 飛んで火に入る夏の虫。(自分から危険にとびこむ。)
  - 話が飛ぶので意味がわからない。
  - 順番が飛んでつづきがわからない。
- 【跳ぶ】(↓中学) 高く上がる。足ではねて地面からはなれる。
- なわを二回跳ぶ。
  - 溝を跳んでむこう側へわたる。
  - かえるがびよんびよん跳ぶ。
  - 走り幅跳び・走り高跳び・三段跳び
- 【跳】には「とばす」という読みはありません。

# 編集余録

○書道芸術学生版には、皆さんの学習の手助けに、「筆順を学ぼう」を掲載しています。「正しい筆順に従って、文字の形に注意して、丁寧に文字を書く。」事はとても大切です。筆順は習慣になります。正しい筆順を理解して普段から文字を書きましょう。また、毛筆以外でも、学校の漢字書き取りや、ノートをとる時にも気を付けて書きましょう。その習慣と積み重ねが大切です。

○丁度今、平成27年度の毛筆と硬筆の課題を検討しているところです。季節感も取り入れ、課題選びもなかなか大変です。特に硬筆課題の低学年は文字数の制限もあり、その中で出来る限り良い文章をと心がけています。毛筆も全体的な統一感が大切なので揮毫して頂く先生方に細かい部分まで協力をお願いします。沢山の力の結集によって、書道芸術学生版が出来ています。更に品格の高い本を目指します。

(鄭街)